氏青通信

飯坂八幡神社
氏子青年会
発行

境内清掃活動

九月三十日、「十五夜」と翌週に迫った「例大祭」を前にして例年行なっている清掃活動を行ないました。
夕方四時、会員約二十名が手に手にほうきやちりとり等を持ち寄って、境内の清掃に努めました。

今年は例大祭の前ということもあって、特に念入りに清掃をしましたが、皆さんの協力のおかげで約一時間程で作業を終了しました。作業終了後「中秋の名月会」と称し、会員の親睦会も開かれました。
まだ満月ではありませんでしたが、きれいな月明かりが親睦会を祝っているようでした。

「中秋の名月」て何？

一年には「春夏秋冬」の四季がありますが、旧暦では三ヶ月毎に季節が変わり、七・八・九月は秋の真ん中で「中秋」
旧暦は太陰暦ですから日付はそのときの月齢によく対応しますので、月の半ばである十五日はだいたいにおいて満月になります。
古くから日本には八月十五日、秋の澄んだ空に昇る満月を「中秋の名月」と呼んで鑑賞する風習がありました。
秋は収穫の時期でもありましたので、その年の収穫物を月に供える風習が残っており、「芋名月」などとも呼ばれています。
現在、月見団子を供えるのも、芋を供えた風習の変形だと言われています。（団子も芋も「丸い」ということ）

お月見雑学

一 お月見の歴史

中秋のお月見は、稲の豊作を祈る祭りからといわれ、中国では古くから「望月（もちづき）（月を見る催し）」という行事がありそれが伝えられたものが影響しています。

「お月見」の日本で最初の記録は、八六五年で菅原道真とか。しばらくは高級貴族達だけの風習が、江戸時代になると一般庶民にも広まり、ポピュラーな行事となったようです。

二 十五夜に団子などを供えるのはなぜ？

一般的にはススキを飾り、餅や団子を供えますが、地域によっては梨や里芋、栗、枝豆などの旬の収穫物を供えます。これには収穫を感謝する儀礼的な意味があるそうです。

里芋を供えることから、「芋名月」とも呼んでいます。

また、ススキの穂を供えるのは、ススキを稲に見立てて豊作を祈願しました。

三 中秋の名月は満月ですか？

実は、この日の月は必ずしも満月とは限りません。むしろ満月であることの方が少ないのです。これは月と地球の公転軌道の関係で、新月から満月までの日数が十五日とは限らないために起こります。

ちなみに今年の満月は十月七日でした。

十五夜が六日、満月が七日、ちょうど例大祭の最中でした。

天候もあまり良くありませんでしたが、皆さんは見ることができましたか？

四 もう一つの名月

日本では十五夜だけでなく(旧暦)九月十三日にも月見をする「十三夜(いざよい)」の風習があり、日本独自のもの。

供えるものは十五夜に準ずるところが多いようですが、ススキの本数や団子の数で区別している事例があります。

ところが十三夜には豆を供えるという地域もあり、十五夜の「芋名月」に対し「豆名月」と呼ばれることがあります。

なお、日本では「片月見はいけない」という伝承があり、これは十五夜を行なったら必ず十三夜もしなければならないという戒めを語り伝えたものです。

このように片月見が禁忌とみなされた背景には、生業と天候にかかわる信仰上の事情があったためでしょう。

十五夜よりも十三夜のほうが晴天を期待できます。

今年の十三夜は、十一月三日です。

十五夜で見れなかった方は、ご覧になっては？

五 月とうさぎ

日本では、月を見ると月の模様が「うさぎがお餅をつく」ように見えます。

「もちつき」は満月という意味の「望月(もちづき)」にかけられています。

また、古来よりうさぎは、「月よりの使者」といわれています。

月を呼ぶ、ツキ・運を招く、月うさぎとして永く親しまれ、その絵柄も縁起のよいものとして喜ばれています。

編集後記

今回の氏青通信は、清掃活動の報告だけでは紙面が乏しくなってしまいましたので、お月見の雑学を載せさせていただきました。各々の家ごとや地域によって、多少違うところがあると思いますがご理解の上、ご了承ください。